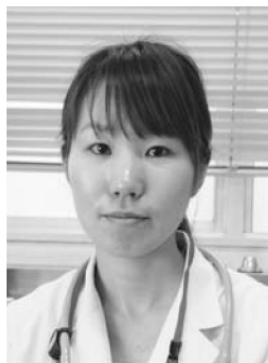


「パーキンソン症候群」



内科医師

土師 恵

山香病院だより vol.74

こんにちは。4月から山香病院内科で勤務させていただいています。土師恵です。よろしくお願ひします。

今回はパーキンソン症候群について、紹介します。パーキンソン症候群とは、パーキンソン病のような症状が起こる疾患群のことです。

パーキンソン病とは、①安静時振戦(何もしていないのに手や指がふるえる)②固縮(関節がうまく動かない、固い)③動作緩慢(歩き方等がゆっくりになる)④姿勢反射障害(転倒しやすい)の4つの症状を特徴とする病気です。具体的には、手がふるえて、表情が乏しくなり、小声でぼそぼそしゃべる。動きがゆっくりになり、歩幅が狭くなり、こげやすい、といった症状が特徴的です。脳の基底核という部

分の細胞が変性して働かなくなってしまう、ドーパミンという神経伝達物質が少なくなることで、このような症状が起こってしまう。

話をパーキンソン症候群に戻します。パーキンソン症候群は、症状はパーキンソン病と似たようなものが起こりますが、原因が異なります。

具体的原因として、

①**脳血管障害性**：脳梗塞や脳出血の後遺症によって起こります。脳梗塞や脳出血が小さい場合は、明らかな症状が出ないことがあり、画像検査で疑われます。パーキンソン病薬による治療で、少し改善の見られることがあります。

②**薬剤性**：薬によって、脳から出るドーパミン作用が減少します。原因となる薬剤を中止することで症状が改善しま

す。薬剤は通常使用しても特に問題ない場合がほとんどですが、人によっては症状が出現します。

③**脳炎後遺症**：ウイルスによる脳炎の後遺症による症状です。

④**中毒性**：急性期の症状が改善した後の慢性期一酸化炭素中毒の1つの症状です。また、マンガン(金属)中毒でも起こるため、どのような仕事をしているかも重要です。

⑤**正常圧水頭症**：歩行障害・尿失禁・認知症を3大症状とする病気です。脳の周りに髄液という液体がありますが、毎日作られ、毎日吸収されています。色々な理由で吸収が追いつかず、髄液が多く溜まって脳を圧排してしまいます。

⑥**その他の神経変性疾患群**：特にここに入るものは初診時や初期には確定診断つかないことがあります。時間がたつにつれて症状がはつきりし、所見や画像でも違いが出てくるからです。ただ、通常のパーキンソン病と異なり、薬で改善が乏しいことが多くみられます。

よくある病気、というわけではありませんが、「そういえば」と思うきっかけになれば幸いです。